



鶴の便り 鶴の便り

第二十三回

夕鶴の里語り部養成講座

東北文教大学短期大学部教授
(民話研究センター長)

佐藤 晃 氏 講演会

〜民話語りの

豊かさとは〜

七月九日(日)、第二十三回夕鶴の里語り部養成講座の一環として、講演会が開催されました。

第一部は東北文教大学短期大学部教授で民話研究センター長でもある佐藤晃氏に「民話語りの豊かさとは」と題して講演をして頂きました。

夕鶴の里資料館報

令和5年8月10日

第 152号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800



当日は、地元の語り部の方のもとより、市外の語り部の会に所属している方や夕鶴の里の語り部養成講座の受講生も佐藤晃氏の講演を熱心に聞いていました。

講話では、武田正先生が採話する際は、「一生懸命聞く」「受けたものに答える」ことを心掛けていたなどが話されました。

また、語りを聞いたたり、採話したらガリ版刷りにしてお返しをしていたそうです。

そして武田正先生は語りで「ある事」を発見します。

「相槌」が語りでは大事!

昔は少人数に語っていたため、聞き手は相槌を打つて答えるという共同作業が

民話の楽しみにもなっていました。そのため、自身が良い聞き手になることを意識されていた事などが紹介されました。

佐藤晃氏は、民話語りの豊かさとして、

・ 話は同じでもその方の語り方で人生観が出て

いる
・ 得意なものが活かされる語り

・ 民話の語りの自分化

・ 語りの豊かさに繋がる

聞き手がいて民話が成り立つ事や、語り部の思いを民話に込める事が民話の自分化につながるなどのお話は、語り部さんにとっては大変参考になったと思えました。



堀 敏子さん
「勇気のある小僧っ子」



伊藤進司さん
「人間の寿命」



朝倉喜美子さん
「貧乏士族」

第二部は、民話会ゆうづるより三名の方が語りを披露しました。

